

総合問題

(150分)

〔注意事項〕

1. 監督者の指示があるまで、この冊子と解答用紙を開いてはいけません。
2. この冊子の問題は5ページからなっています。また、解答用紙は4枚、下書用紙は2枚あります。監督者から解答開始の合図があったら、この冊子、解答用紙を確認し、落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所などがあれば、手をあげて監督者に知らせなさい。
3. 解答用紙には、受験番号を記入する欄がそれぞれ2箇所ずつあります。監督者の指示に従って、すべての解答用紙(合計4枚)の受験番号欄(合計8箇所)に受験番号を必ず記入しなさい。
4. この冊子の白紙と余白は、適宜下書きなどに使用してよい。
5. 解答は、必ず別紙「解答用紙」の指定された場所(問題番号や設問の番号・記号などが対応する解答欄の中)に記入しなさい。なお、指定された場所以外や、裏面への解答は採点対象外です。
6. 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
7. この冊子は、持ち帰りなさい。

I 次の文章を参考に，後の設問に答えなさい。(配点率 50%)

(著作権の関係で掲載しておりません)

出典

International Organization for Standardization. “BENEFITS OF STANDARDS”, “ABOUT US”.
International Organization for Standardization. <https://www.iso.org/benefits-of-standards.html>,
<https://www.iso.org/about-us.html> (参照 2019年9月19日).

※出題の都合上、原文から変更している箇所があります。

問1 グローバル化が進むなか、テクノロジー、ビジネス、デザインなどの様々な分野で「もの」や「事柄」の標準化は重要である。文章の内容を踏まえ、国際標準化の意義を3つ挙げなさい。

問2 国際標準化のデメリットを考え、2つ挙げなさい。

問3. 1 地域標準、国家標準、団体標準、または、市場淘汰による事実上の標準などの場合、国と国の間で規格や決まりが異なる場合がある。そのような例を2つ挙げなさい。ただし、国と国との間とは二国間だけではなく、一国対複数国、複数国対複数国と考えてもよい。

問3. 2 問3. 1で挙げた例のうちの1つを選び、それによって起こりうる問題を100文字以内で述べなさい。

(解答用紙 問3. 2(a)解答欄に解答)

さらに、その問題に対し、あなたが考える改善案(アイデア)とその効果を、それを実現する上で想定される障害(社会的、技術的、慣習的等)にふれながら具体的に述べなさい。

所定の枠内であれば、文章に加え図を用いてもよい(図は必ず用いる必要はない)。

(解答用紙 問3. 2(b)解答欄に解答)

II

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。(配点率五〇%)

表面の経験

私たちの周囲は多様な表面^①(サーフエス)でレイアウトされている。表面とは、空気とものとの境界であり、そこで私たちは生きて活動している。

いちばん大きな表面を地面とよぶ。大岩が、水や風や陽の浸食作用で砕け、小石や砂になり、その小さな粒が地中のどこにも大量にいる土壌動物ミミズの腸を通過して黒い土になる。それが地面を作っている。黒土の大規模な塊は、重力に抗してその力の方向に直角に翼を張るように拡がり、広大で平坦な沃土になった。

現在、植物が繁茂する地面はミミズと重力の働きで作りに上げられた。

私たちの身体はこの地面に比してきわめて小さいが、土と同様に重力によつてつねに下へと押し付けられている。重力に抗つて姿勢を維持しながら地面の上を移動することは容易ではない。したがって移動は、負荷をなるべく避けて凹凸の少ないところ、より平らなところを探して行なわれている。結局、どの陸生動物の移動も、比較的平坦で固い表面で行なわれる。動物の移動を支えているのは地面である。

海岸辺りなどにある、凸凹のある岩場を長く歩かねばならない時に、私たちはなるべく平らなところを探して、そこに足を置く。移動とはそれを支持する地面の性質を探すことでもある。移動に熟練した私たちは、眼の前に広がる地面のどこが、つぎの一步をあずけられるところなのかを見分けることができる。

移動のような経験をここでは「表面の経験」とよぶことにする。それは、周囲の表面の性質を、ただそのまま発見して利用することである。移動を支える「地面」のように、種々の行為を可能にする表面の性質が周囲にはある。たとえば「登山」とは、山の表面に体重による負荷で崩れない小さな窪み(足場)と、休憩のために尻の置けるもう少し大きな窪みを探しながら移動することである。登山は山肌にある多様な、おそらく数万におよぶ窪みによつて可能になっている。それらを探しあてること、利用することが「登山」における「表面の経験」である。

表面の修正の経験

移動に疲れはてて一夜の休息を取る時、私たちは体を横たえられるところを地面に探す。そこならば雨と風がしのげるだろう洞穴を見つけ、その奥に動物が住んでいないのなら、そこは寝るところとして利用できる。これも「表面の経験」である。

しかし、雨や陽を避けられるほど枝を広げた大きな木の下には、刺のある下草が密生して、そこに身体を横たえることを妨げるかもしれない。いくら探し回つても、身体を横たえるほどの窪みを迎りに探しあてられないかもしれない。そんな時には私たちは表面の配置を修正する。小石や草を取り除き、固い部分の土を砕いて柔らかくする。窪みを堀る。もしそこを長く住める表面の配置にしようと思えば、森から木を何本も切り出してきて丸太にして、平らな地面に打ち込ん

たり、積み上げたりして、大きな囲いを作る。木がなければ乾いた草、石、焼いた土で囲う。このようにして周囲の表面を修正してできた囲いが「家」である。

この種のことを「表面の修正の経験」とよぶ。「表面の修正の経験」はもともと表面にあった性質を強めたり、弱めたりすることであり、もとの表面にはなかった性質を表面に作り出すことである。

表面を修正して「囲い」を作る仕事を「建築」と言う。地面を修正してより平坦にしたり、固くしたりして、その上を大量の人やものが移動できるようにすることを「土木」と言う。食物の表面を修正して、口に入りやすい大きさや固さにしたり、熱を加えて表面の化学的性質(味)を修正することを「料理」と言う。頭髮や顔面や身体部分の表面を修正して、そこにもともとあった性質を際立たせたり、目立たなくすることを「美容」と言う。土からできる表面を修正してできた容器は「陶器」とよばれ、ケイ酸塩を溶融させて急速に冷して新しくできた表面をガラスとよぶ。私たちが「職業」とよぶことの多くは、長い時間をかけて表面の修正に習熟することをもとにしている。

表現表面の経験

もう一種の「表面の修正の経験」がある。それは表面のももとの性質に、他の表面にあった性質を重ねようとすることである。陶工は陶器の表面に縄を押し付け文様を刻むが、それだけではなく、昨日、彼が野原で見た動物の姿を、尖った棒でそこに刻むこともある。その陶器を使用する者は、陶器面とともに動物の姿を知覚する。そこは陶器の表面であり、かつ動物の身体面を意味する。その表面の意味は二重になる。誰もそれが陶器の表面であることは疑わない。しかし、そこに動物の姿があることに驚かない。数万年前から洞窟の壁面には、そこにはない他の表面にある意味が刻まれてきた。私たちの周囲の表面の一部には、そのようにその表面そのものから得ることのできる経験とは異なる、もうひとつの経験を人びとにもたらす表面がある。そこにはふたつの表面の意味が同時にある。

このようにひとつの表面に、他の表面が意味することを重ねた表面を「表現表面」とよぶ。表面自体の経験と、その表面にはない、元来は他の表面での経験を二重にした表面の経験を「表現表面の経験」とよぶ。絵画^②、動画、ヴァーチャル・リアリティ^③などよばれている表面が与えているのは「表現表面の経験」である。

数千年前に、人は発話音を特別な模様、(楔形文字、梵字など)にする方法を発明した。表面に重ねられる他の表面の性質は、光にもとづくだけではなく、空気の振動にももとづくようになった。書物の表面が私たちに与えているのは、紙面と他者の声を同時に知覚することである。書物には紙と空気の振動の経験が二重に畳み込まれている。

誕生した時から、私たちはここにあげた三種の表面に囲まれている。周囲には未加工の表面、修正された表面、表現された表面がある。私たちは^④三種の表面についての経験をづけながら成長する。やがて誰もが、表面そのものの性質と、表面を修正することと、表面に他の表面の性質を刻み付けることに熟知する。

【出典】 後藤武・佐々木正人・深澤直人著『デザインの生態学 新しいデザインの教科書』（東京書籍株式会社、二〇〇四年）より

※出題の都合上、原文から変更している箇所があります。

問 1 傍線①と傍線③のカタカナを英語で表記しなさい。

問 2 傍線④の「三種の表面についての経験」のそれぞれの説明としてふさわしい箇所を文中から抜き出しなさい。

問 3 傍線②の「動画」の経験における「表面自体」と「表現表面」をそれぞれ説明しなさい。

問 4 人間が行うあらゆる活動の中から、筆者が説明している三種の表面にまつわる経験の全てを含む具体例を一つ挙げ、その活動を構成する経験について、それぞれが本文における三つのどの経験に該当するかを明示しつつ300字以内で説明しなさい。

(以 上)